

アメリカン大学との 交流を終えて

大学院国際協力
研究科助教 中 達 啓 示

被爆五十年目の夏

被爆五十周年の夏が終わった。広島は行政、マスコミはもとよりわれわれ大学関係者にとっても、次々に訪れる遠方からの客のもてなしや、毎週のように続く国際会議に忙殺された、異常な夏であった。

しかし幸運であったことは、そうした忙しい夏の毎日を通じて多くの新しい友を得たことであつた。その中でも、合衆国の首都ワシントンからやってきたアメリカン大学の学生との交流は、理想に燃えた若者たちが相手だっただけに、爽やかな印象の残るものであつた。

アメリカン大学の夏期セミナー

アメリカン大学の夏期セミナーについては広島のマスコミでも連日のように報道されたが、不思議なことに、その具体的内容についてはあまり触れられていない。

「核の歴史―広島、長崎とそれ以降―」と題されたセミナーの開催をアメリカン大学の内部で初めて話し合われたのは、一九九四年の春のこと、今回広島を訪れたピーター・クズニック準教授や彼の元学生で現在大学職員の直野章子さんたちの草案から始まった。

セミナーには三つの柱があり、七月の後半にまず核問題の歴史と現状に関するリレー講義がアメリカン大学で開催された。二番目の柱は、マーティン・シャーウィン等の著名な歴史家た

ちを招いて開かれた「原爆投下の決定」に関するシンポジウムと原爆展の開催であつた。シンポジウムはワシントンでは有線テレビの放送局であるC-SPAN、広島ではRCCによつて一般聴視者に向けて放映された。そして三つ目の柱がアメリカン大学生による日本への研修旅行であつた。

セミナー三つ目の柱―アメリカン大学生による日本への研修旅行

日本での受け入れ機関を求めて直野さんやアメリカン大学のヴァレリー・フレンチ教授が、昨年から今年にかけて数回にわたつて関西や広島を訪れた。その結果、関西では立命館大学の平和ミュージアムが、広島では広島市(平和文化センター、原爆資料館)と広島大学大学院国際協力研究科が受け入れることを決定した。

その後、スミソニアン航空宇宙博物館による原爆展の開催中止騒動が日米のマスコミによつて大々的に報じられたため、その渦中で行われたアメリカン大学のセミナーは、当然衆目を集めるところとなつた。クズニック準教授は私に、「セミナー開催までは退役軍人や一部の市民からの抗議があり、私立大学であるアメリカン大学にとって重要な財源である寄付金集めにも深刻な影響が出るのが懸念された。しかし、学長などの勇断で開催を実行してからは、その学問的な性格からワシントンポストやニューヨークタイムズ等の有力紙記事も好意的なものとなつ

た」と説明した。アメリカン大学の学生たちの日本での日程は、まず京都で太平洋戦争開始前後の日本の政策や戦後補償に関する日独比較などについて学び、広島では平和祈念式典参列や資料館訪問とともに、在韓被爆者の歴史や被爆者による証言などに耳を傾けた。しかし、厳しいセミナーの合間をぬつて、彼らは国際協力研究科の学生と一緒に宮島を訪れ、もみじ饅頭をほおぼり、鹿と戯れる時を楽しんだ。そして、国際協力研究科の学生にとつても、ささやかな国際協力を実践する機会となつた。

今後の交流

クズニック準教授やフレンチ教授は、今後もうこうした交流を続けていくことを計画しており、今回の計画の立命館大学側の責任者であつた藤岡教授も賛同を表明した。クズニック準教授はまた、アメリカ人を含めた全ての原爆犠牲者を弔う、アメリカ側による記念碑を平和公園内に建立する運動を帰国後開始すると私に話した。(なかつじ・けいじ)



写真は、アメリカン大学によるフェアウェル・パーティーの時のもので、写っているのは、左からクズニック準教授、直野さん、藤岡教授、被爆者の下原さん、筆者

全日本大学サッカー トーナメント初戦突破

教育学部四年 ◆ 笠原弘樹



▲初戦終了後、西京極陸上競技場で

六月二十七日より兵庫県と京都府を中心に開催された全国大会に、中国地区代表として二年ぶりに出場した。

過去の全国大会では、いつも惜しい試合をしながら、まだ一度も一回戦を突破できず、「今年こそは」と二月に新チームに変わつて以来、「全国での勝利」を目標に練習を行つてきた。

ここ数年は、どの全国大会にも中国代表として出場するほどの実力になり、中原監督のもと、組織力では全国でもトップクラスと言われるほどに成長した。

そして迎えた今大会、一回戦の相手は関西一位の天理大学。前半は、過度の緊張のため自分たちのサッカーができずに〇対〇で折り返したが、後半は徐々に自分たちのサッカーができてはじめ、広大ペースでゲームが進み、35分に安藤(4年、37分に笠原(4年)がゴールをあげ、反撃を一点に抑えて二対一で初勝利をあげた。

そして準々決勝では、今大会で優勝した関東一位の駒沢大学と対戦し、〇対一で迎えた後半、前半から続けてきた戦術が功を奏して、9分に安藤、16分に筒井(3年)が決め、一時は逆転したが、最終的に二対三で敗れた。しかし、インカレにつながるいい試合ができたと思う。

今大会で一番うれしかったことは、初勝利を、縫部(3年)を中心に一緒に喜び最後まで応援してくれたBチームの仲間がいたことだつた。(かさばら・ひろき)